

61. 大阪市立早川福祉会館

所在：南田辺 1 丁目 9－28

・沿革

故早川徳次氏(※1)が、生前に大阪市へ 7000 万円（建設資金 6500 万円、整備資金 500 万円）を寄付された資金をもとに、大阪市が昭和 37 年(1962 年)2 月に着工、同 9 月に竣工開館し、寄付者を顕彰して大阪市立早川福祉会館と名付けられました。

会館では開設の趣旨に沿って身体障がい者をはじめ、老人、寡婦^{かふ}、青少年等市民の福祉増進とコミュニケーションを図るために、各種の事業を行っています。

施設の老朽化などにより、従来の点字・録音図書室機能等の充実に加え、障がい者の自立と社会参加を促進する機能を併せ持つよう、平成 5 年度（1993 年度）に建て替えが開始され、平成 6 年(1994 年)5 月に今の会館が開館されました。

※1 早川徳次

シャープ株式会社の創業者、国産第 1 号鉱石ラジオの開発者、早川式繰出鉛筆（シャープペンシル）の発明者としても知られる。氏は苦難の時期に障がい者に励まされたことに恩返しをしたいと多くの社会奉仕を行われたといわれています。

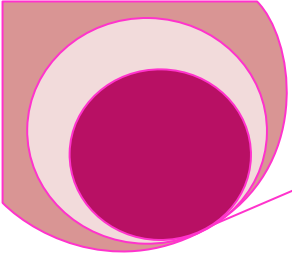
・障がい者のための点字、録音図書館の事業

現在、会館ではボランティアグループによる点字図書の製作(昭和 38 年(1963 年)より)、録音図書の製作（昭和 54 年(1979 年)より）が続けられており、目の不自由な方に無料で貸し出されています。

これらの点字図書は「[サピエ図書館](#)」で活用され、インターネット上で公開され、いつでも読むことができます。

点訳では早川点訳グループとサークルブックエンドが、音訳では音訳グループ^{ゆうづつ}と早川音訳グループが総勢 400 人のボランティアで活躍しています。各ボランティアグループは点字図書室への納本、個人からの本等の依頼点訳・音訳の他、対面読書や点字カレンダーを毎年作って配布するなど活躍しています。





62. ^{かんごう}中野村の環濠

所在：針中野 1 丁目～3 丁目

江戸中期の平野七名家の一つ・土橋家に残された文書によれば、現在の今川は狭山西除今川と呼ばれ、旧西除川は狭山西除天道川と呼ばれていたことがわかります。

また、旧中野村は今川と天道川の間に挟まれており、天道川から取り込んだ水路によって、^{かんごうしゅうらく}環濠集落となっていました。

また、その図から現在の道路が環濠の跡であることも読みとれます。

環濠がωのような形になっている中央部北側のへこみが、現在の針中野の北側道路であり、東側は[中井神社](#)東側と林覚寺東側の石垣と判明します。また西側は現在の「針中野わくわく公園」の用地が天道川の川跡であることも推察できます。

南側は[中野鍼灸院](#)の辺りと思われますので、環濠に収まる旧中野村は大変小さい集落であったことがわかります。

なお、「針中野わくわく公園」前道の東側が中井神社の氏子領域で、西側が[山阪神社](#)の領域ですので、天道川が神社の氏子を分けていたことになり、針中野周辺の天道川の河川跡が神社氏子の境界線を辿ることによって確定することができます。

63. 「はりみち」の道標

所在：針中野 3 丁目 2-14・3-18

大正 3 年（1914 年）に南海平野線が開通した時に、中野駅から中野鍼灸院（中野のはり）まで 320m の間に 7 基の道標^{みちしるべ}「はりみち」が辻の角々に建てられ、その後平野線は廃線となったが、2 カ所の道標は残っています。
現在、天王寺の庚申堂から、苗代田ー桃ヶ池ー北田辺ー中野ー住道矢田ー瓜破に至る道路を庚申街道と呼び、「はりみち」の道標はこの街道に沿って、中野の地域に建てられています。



64. 阪神高速道路 14 号松原線—環状線方面駒川出入り口

所在：駒川 3 丁目 3 1

OsakaMetro 谷町線の駒川中野駅に接近して、阪神高速大阪松原線の環状線方面駒川出入り口があります。
この出入り口は、[長居公園](#)で大きなイベントがあるときなどの、道路交通の拠点で、平成 19 年（2007 年）世界陸上大阪大会開会式にご臨席の天皇・皇后両陛下も、駒川出入り口を利用されました。



65. 阪和貨物線と「おおさか東線」

阪和貨物線は、加美(大和路線)と杉本町(阪和線)を結ぶ貨物専用線で、東海道線の吹田操車場と加美(久宝寺)とを結ぶ城東貨物線とともに、東海道・山陽という幹線と南大阪や和歌山方面を結ぶ貨物輸送に使われていました。

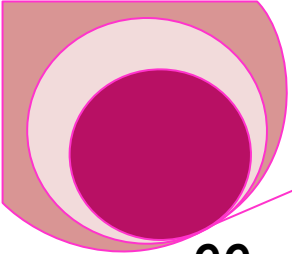
阪和線と関西本線が接続する天王寺駅には、阪和線と関西本線の線路に段差があり、天王寺駅でV型に切り返すか、外環状線を西九条方面に迂回する方法を採らなければ容易に阪和線から関西線や環状線に乗り入れすることができない状態でしたが、この線を利用して特急や修学旅行列車を通過させる奇抜なダイヤを組んで、当時としては、結構、話題になった線路です。

しかし、阪和貨物線(加美―杉本町)は鉄道による貨物輸送の縮小にともない、平成16年(2004年)7月に閉鎖され、平成21年(2009年)3月には、阪和貨物線(加美―杉本町)は、路線の鉄道事業が廃止されたので、この線路に列車が復活する可能性がなくなっています。

城東貨物線は、新大阪―大阪―天王寺の線路も飽和状態であり、JR西日本としては、新大阪(吹田)―放出一加美(久宝寺)間を高架化し、「おおさか東線」として旅客輸送を行っています。(平成20年(2008年)3月15日から、放出一久宝寺が開通、平成31年(2019年)3月全線(新大阪―久宝寺間)開通)

全線の開通で、大阪市内から放射状に走っている主要鉄道の全ての駅と結ばれています。





66. 東住吉区内の主な交通機関と道路

1. 東住吉区内の駅

- ・ JR-大和路線 （東部市場前駅）
JR 大阪環状線・JR 難波・天王寺～王寺～奈良・加茂方面
- ・ JR-阪和線 （南田辺駅・鶴が丘駅）
天王寺～和歌山方面
- ・ 近畿日本鉄道—南大阪線 （北田辺駅・今川駅・針中野駅・矢田駅）
大阪阿部野橋～河内長野・橿原神宮・吉野方面
- ・ OsakaMetro—谷町線 （田辺駅・駒川中野駅）
大日・東梅田～八尾南方面

2. 主な道路

- ・ 阪神高速 14 号—松原線 （[環状方面駒川出入り口](#)）

【東西の道路】

- ・ 国道 25 号（通称—奈良街道） （杭全交差点を通り東住吉区北部を、ほぼ東西やや南に走る） 梅田新道～天王寺～杭全交差点～八尾～柏原～奈良～四日市市方面へ。
- ・ 松虫通 （南港通りの北側を平行に東西に走る。） 平野区西脇（国道 25 号と大阪内環状線・国道 479 号の交差点）～今川 2 丁目～昭和町～松虫～聖天坂方面へ。
- ・ 南港通り（通称）・府道 5 号大阪港八尾線、 （東住吉区の中央部を東西に走る。） 平野～地下鉄駒川中野駅・阪神高速 14 号松原線[環状方面駒川出入り口](#)～東住吉区役所前～西田辺～玉出～南港方面へ。

※余 談

かつて昭和 20 年（1945 年）ごろ、駒川商店街以西を十三間道路（約 24m）と呼んでいました。当時としてはかなり幅の広い道路でした。

- ・ 長居公園通り（通称）・国道 479 号 （長居公園の南側を東西に走る。） 平野区長吉～喜連瓜破～湯里 6 丁目～長居公園東～長居公園～住吉区千躰（阿倍野筋）方面へ

（次ページへ続く）

※余 談

大阪国際女子マラソンなどでは、長居陸上競技場を出て、まず長居公園通りを東に進み湯里 6 丁目を左折、今里筋に入るコースをとっていた。

【南北の道路】

- ・ 今里筋 （東住吉区の東部を南北に走り蒲生 4 丁目交差点で国道 1 号に入る） 湯里 6 丁目で長居公園通り・中野町交差点で通称南港通り・今川 2 丁目交差点で松虫通り・杭全交差点で 25 号等と交差）
- ・ 長居公園東筋 （東住吉区の中央部を北田辺 6 丁目松虫通りとの交差点から南に走る。） 北田辺 6～東住吉区役所前（南港通り）～（東住吉警察）～長居公園東（長居公園通り）～行基大橋（大和川）を経て堺市大泉公園～大阪中央環状線方面へ。

67. 東田辺小学校の ビオトープ

所在：東田辺 2 丁目 1 4－6

平成 10 年(1998 年)12 月に東田辺地域住民やボランティア、小学校の子ども達の協力により竣工しました。
市街地の中にトンボやホタルが飛び立つ自然環境が再生され、ポンプにより、水が循環し、浄化されています。
毎年 6 月には「ホタルの夕べ」が開催され、多くの人が集まります。
ビオトープ竣工以来、大阪府内外や遠くは東京方面からの見学者もあり、東田辺の「希望の泉」として、そのシンボルの 1 つとなっています。



68. 平等橋

所在：針中野 2 丁目 5 - 10 東

平等橋の北側は今川緑道で、桜トンネルのような桜並木と、ユキヤナギが美しい堤の南端ですが、昭和の中頃までは、この橋から東に向かって、現在の常磐会短大（旧巽池と北池）に至る平等堤の西端に当たり、さらに平野に向かう八尾街道（住吉一中野ー平野ー八尾）の中間点になり、また喜連環濠^{きれかんこう}を水源とする喜連川と今川との合流点でもありましたので、主要街道の交差点や水路の合流点として重要な橋でした。実際に江戸時代中頃に書かれた土橋家文書の中には、平等堤とその北側にあった元平等院の寺領であった字・平等との文字が読みとれ、平等堤がその北側にある平等院の寺領を、喜連川の洪水から守るために構築された堤だと云われていました。しかし今川や喜連川は、江戸中期に「悪水抜」と表記されるような農用と生活排水の細い水路であり、排水用水路として昭和の中頃まで同様な形態で残っていました。

しかも、当時の平等橋の南側一帯は一面水田であり、川幅やその水量から見て、到底奈良時代の息長川を想定できるものではありませんが、江戸時代の古伝承を伝える並河誠所^{なみかわせいしょ}や森幸安^{もりこうあん}（※）などは、今川や喜連川が奈良時代には息長川であったと主張し、東住吉区史も並河誠所の撰津志の記述を認めて、今川が息長川であると表示しています。

※森幸安

京都出身。伊能忠敬など後学にも大きな影響を与えた歴史地理学者。江戸時代に畿内と日本全国の歴史地理情報のほか天文図、世界図、地球図、東アジア図などを 500 点以上も、彩色・手書きで書き残し、各地に現存しています。後年、平野にも居住していました。



69. (公財)平野区画整理記念会館

所在：中野2丁目7-16

1. 平野土地区画整理事業の概要

宅地造成を目的とする面的整備であって、その手法は、施行区域内の土地所有者がそれぞれの土地の一部を公共施設用地として提供し、道路、公園、下水道等を整備するもの。

大阪市平野土地区画整理組合→昭和5年(1930年)12月設立認可

施行面積→391ha(旧平野郷町の大半とその周辺を含む18カ町村)

2. 平野区画整理記念会館の設立

50年に亘る大阪市平野土地区画整理組合事業の完成を記念して、地域住民が明るく住みよい地域社会づくりと、コミュニティの輪を広げるため、昭和57年(1982年)12月13日財団法人として設立。昭和58年(1983年)4月15日開館

3. 会館の目的および目的達成事業

- ・ 地域住民の福祉、文化の向上を積極的に図り、以って望ましい地域社会の発展に寄与することを目的とする。
- ・ 住民の文化の振興、福祉、体育向上に関する講座および研究会並びに講演会等の開催。
- ・ 郷土芸能および文化財などに関する資料の保存に対する助成。

